

海外だより

徹ちゃん 韓国で大活躍

神奈川県支部 明石 洋子

日韓共催ワールドカップの熱気の高さを張って、両国の自閉症の本人・関係者の熱い交流がありました。
明石さんよりその模様について寄稿いただきました。

3月17日(日)午後8時から韓国放送公社(KBS)の看板番組「日曜スペシャル」で、1時間、「走って世の中に」というタイトルで、我が家のドキュメント番組が放送されました。これは2年間口説き続けたKBSの熱心さに負け、昨年12月に、5名のスタッフから密着取材を受けたものです。「公務員Ⅱ高機能自閉症」と勘違いされていた故、期待どおりに行動しない(演技は無理!)徹之に、スタッフは悪戦苦闘!しかしありのままを認め、とことん付き合った結果、京都のデート(パントマイム披露)や町内の夜回り、カラオケでのドラえもん熱唱等、ハプニングいっぱい楽しい映像が撮れました

この放送終了直後から視聴者からの感想がTV局に殺到したとのこと。「画面からあふれるあの笑顔の子育て

法は?」「障害者に必要なものは、訓練でなく地域社会か」「韓国の障害者は街に出ない」...等々「自閉症で、しかも知的障害があるのに公務員」等々、全てが衝撃的だったようです。

「パラダイス福祉財団」の事務局長さんが4月突然我が家に来られ、「韓国に来て子育ての話をして欲しいと、三百名を超える親からの要請がある」とのことです、ちよつと強引なお誘いと、ワールドカップの年、日韓友好の一助になればと考え(初めての韓国観光のおまけにつられて?)、「明石母子招待講演会」(5月5日~10日)の企画に乗りました。

韓国到着後、韓国の国営放送KBSの力の大きさを痛感!道でも、観光地、ホテル、空港でも「日曜スペシャル見ました」と呼び止められ、家族との記念写真や、小学生や高校生からは囲まれて(徹之は大喜び)サインを求められたり、びっくりです。我が家に来て撮影したカメラマンさんが、韓国の方の反応が余りに感動的なので、自分のホームビデオ用カメラをKBSのカメラに持ち替えて撮影しました。「視聴者から継続してとの希望もある」とのこと、この韓国旅行とこれからの私どもを追って、「日曜スペシャル」の第2弾とするそうです。

さて講演はソウルでは、国立の養護

学校の慶雲学校(5月7日)で、次いでプサンで、国立釜山大学校(5月9日)で行いました。双方とも五百人の会場に、六百名以上の方が来られ、後方や通路の階段まで座って、熱心に聞かれました。3時間の講演予定でしたが、質疑応答が延々続き、今でもメールで回答しています(パソコンにハンゲル翻訳ソフト入れました)。

養護学校の校長先生(ソウル市内29校の)や特殊教育の先生、大学教授から「アイデアいっぱいの子育て、韓国に新しい風を入れてくれた」、「訓練よりも自立という考えに至った過程や、問題行動もプラス思考して自立に、超多動も地域との関係作りに、の細かい実例を知りたい」と言われ、日本で発刊する私の本を楽しみにされています。

韓国は、教育熱心な国です。親も「訓練して障害を治して」と願っているようで、「支援あつての自立」という視点はまだないようでした。韓国はアパート建設ラッシュ故、新しい学校も次々と作られています。特殊クラスや養護学校を「地域が反対して受け入れてくれない」と親達は嘆いていました。統合教育のモデル校がいい実践例を出し始め、これから各地の住民に啓蒙しなくてはと切実に感じているところへ、私どもの放送があり、親達は

「生きる勇氣と希望をもらった」「地域の認識が変わる」「地域作業所やグループホームを作る運動に弾みがつく」と喜んでいました。ただ、雇用となると知的障害者がサービス業につくことなど、全く考えられない。「店に客が来なくなる」と言われる。ましてや公務員など衝撃的とのこと。親の会として、「サポートセンターのような生活支援、就労支援も含め地域に生きるための支援システムを作ろう。親の一人一人が力を合わせて、地域社会を変えたい」とのこと。熱心さと努力の国民性、日本より先に実現するかもしれません。



講演をする明石洋子さんと徹之さん